

提言Ⅰ 「全体発表会」を実施しました

2017年2月14日、15日、21日に5年提言Ⅰの「全体発表会」を行いました。

提言Ⅰでは、4年生の「体験グローバル」で学んだ複眼的な視点や、班で行った研究活動を通して身につけた研究の方法を活かして、6月から個人研究を進めてきました。提言Ⅰを選択した76名で、研究内容・テーマが関連する4人もしくは5人で1つのグループを編成（全部で17グループ編成）し、それぞれに指導教員が1名ついて大学のゼミのかたちで、授業時間外も活用して調査してきたことを定期的に報告・発表し合ったり、指導教員からアドバイスをもらったりしながら研究を進めてきました。



今回の「全体発表会」では、すべてのグループから代表者を選抜し、3回の発表会で18人が提言Ⅰ選択者全員の前で発表を行いました。発表は、持ち時間7分（発表5分・質疑応答2分）の中で、パワーポイントや実物投影機を活用して自分の研究成果を報告しました。様々なテーマ・分野の発表でしたが、各自の調査・研究活動を通じて研究者としての視点を高めてきた聞き手からは、発表者に対して鋭い質問もありました。発表者も質問に対して、根拠となるデータや資料をもとに質問者を納得させる的確な返答をする姿も多く見られました。

発表については生徒の相互評価も行いました。以下は、その評価用紙に書かれた発表者へのコメントです。

○日常話している言語を見つめ直すきっかけになった。（話の）受け手（聞き手）が単なる受け手であるのではなく、「参加する受け手」としての姿勢を大切にしようと自分も思うようになった。

○グラフを用いた客観的な情報と、そこからわかることから仮説を立てていて論の流れが自然にできていたと思う。また、問題の解決方法に対する評価もなされていてよかったと思う。

○日常で起こることを数値化できるというアイデアは斬新で面白かった。そして、それを日常に還元できる研究になるとすごいと思った。

○面白いテーマだと思いました。私には難しすぎて途中からついていけなくなるところでした。独特なものに注目して、しかも質問にもきちんと答えていてすごいと思いました。

○仮説に対するアプローチや適切な対処がなされていてわかりやすかった。面白い事実も多かった。また、研究の続きや広がりを感じることができたので今後も研究を継続してほしい。

○自分で仮説を立てて、データで示すという点で、データの使い方が上手だと思った。今後、もう少し大まかでもいいので問題に対する解決案などが明確にできればいいと思う。

○観客を引きつける話し方でとても聞きやすかった。相関係数を算出する際に「正規化」を行えば A-B factor における A と B のスケールの違いを補正できるので、より正確な相関係数が得られると思います。恐らく A-B スケールは5倍程度の差があるので r は向上すると思います。ぜひ try してみてください。Keyword：正規化。

発表を受けて、代表者18名の中からさらに3名を代表として選抜し、3月8日の学校全体の「SGH 成果発表会」で代表発表を行います。

